

# ふらーぬい

十勝岳の噴気にちなんだアイヌ語より

2016. 8. 3 No.4

発行 学校間連携会議  
事務局 富良野東中学校

空の青さも増し、暑さも厳しくなってきました。会議や研修も増えなにかと疲やすい時期かとおもいますが、ふらの特産の美味しいスイーツを沢山食べて、暑い夏を乗り切りましょう。

さて、7月中行われた「第4回学校間連携会議」と「ふらのフォーラム」の一部抜粋し内容をお知らせいたします。

## 〈☆お願い☆〉

### 〈保護者負担軽減に向けた取り組み〉

保護者が負担する授業用の消耗品などの費用を、限りなく無償化に近づけたいとの思いから、保護者負担金の実態調査をしました。学校の規模や特色により、かかる費用は異なりますが、各学校共通で掛かる費用から少しずつ無償化に向けた提案をしていきたいと考えています。

このような取り組みを、事務職員のみならず、沢山の方に知っていただき、皆で学校環境作りに取り組みたいと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。

(学校で負担している消耗品の例)

- ・授業で使用する消耗品(用紙類 など)
- ・教科で使用する消耗品(半紙・学力テスト他)



## 〈☆知ってほしい☆〉

### 【教職員の健康診断について】

- ・健康診断の受診期間 → 28年7月1日～9月30日まで
- ・受診の際「教職員健康診断問診票」と「教職員定期健康診断成績表」を必ず持参する
- ・各学校受診率100%になるようにお願いします。

2016

## ふらのフォーラム開催

7月25日(月)～26日(火)に、「2016ふらのフォーラム」が富良野文化会で開催されました。「北海道の学校間連携の可能性～地域社会や市民に開かれた自由な場所としての学校をもとめて」をテーマに、兵庫県立大学環境人間学部教授 尾崎 公子さん・日本大学文理学部教授 末富 芳さんを講師にお迎えして市内事務職員によるレポート発表やパネルディスカッションが行われました。

○富良野レポート「富良野市の学校間連携の更なる深化・発展」

富良野市の学校間連携の取り組み・富良野における学校事務の在り方「ふらのスタンダード」の確立などの取り組みについての発表がありました。

○講演 尾崎公子さん“教育環境整備に挑む北海道の学校間連携“(疎外論・人権論)～教育を社会共同の事業と捉え地域に新しい教育共同体を創出していくことの必要性について

(地域論)～ 韓国の教育改革の実践例などから地域に根差した教育体制の必要性を説明されていました。

○講演 末富 芳さん“子どもたちの協働を考える”～子どもの貧困問題から学校を「開く」ことを展望する～

子供の貧困問題や貧困から派生する問題を取り上げ、学校がプラットフォーム(拠点)とし教職員・地域がチームとなって、「子どもたちが声をあげられる」「声を引き出せる」環境づくりを一緒に考えることが必要だと説明されていました。

